# 広報 中部の森林（もり）

写真：「金華山国有林から眺める夕日」（岐阜署管内）

私の森語り「想いをつなぎ、心豊かな共感社会づくりを目指す」
株式会社エスウッド 代表取締役 長田剛和

特集
- 木を使うスポーツ「クッブ（KUBB）」始めました

各地からの便り
- 林政記者クラブが無花粉スギの取組などを視察
- 伊那市議会等による現地視察　ほか

シリーズ
- 森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業

国民の森林・国有林
林野庁中部森林管理局

2023/No.237

# 木を使うスポーツ「クッブ（KUBB）」始めました

スウェーデン生まれのクッブは、決められた場所に配置した複数の木片に向かって、下手投げで木棒を投げて倒すゲームで、年齢や体力を気にせず楽しめる対戦型のスポーツとして親しまれています。

中部森林管理局では、今年度から終業後に局庁舎の中庭においてクッブの練習を始め、経験者が初心者にルールや戦術を伝え、長野県職員との合同練習会を行うなど、交流の輪が広がっていますので、ご紹介します。

局で研修を受講していた各署職員も練習に参加

**○使用する用具**

クッブ（木片）　十個
キング（大木片）　一個
カストピンナ
（木の丸棒）六本
コーナーピンナ　四本

クッブは、サイドライン八メートル、ベースライン五メートルのコートで行い、センターラインから手前が自陣、奥が相手コートとなります。コートの四隅にはコーナーピンナを立て、コート中央にキングを置き、それぞれのベースライン上に五個のクッブを等間隔に立て、準備完了です。

チームの人数は原則六名、先攻後攻を決めて、ベースラインより相手コートのクッブをめがけ、順番にカストピンナを投げて倒していきます。一度の攻撃で投げられるカストピンナは、一巡目に先攻チーム二本、後攻チーム四本、二巡目からは六本ずつとなります。

相手に自陣のクッブを倒されてしまった場合は、ベースラインから相手コートに倒されたクッブを投げ入れ、新たな標的とします。そして、そのクッブを倒さないとベースライン上のクッブを攻撃することはできません。更に、そのクッブを倒すことができず、相手コートに残っている場合、相手チームはクッブの立つ位置まで前進し、カストピンナを投げることができます。

相手のクッブを全部倒し、最後にキングを倒したチームが勝利しますが、試合の途中でキングを倒してしまったチームは、その時点で負けとなります。また、制限時間を設けて試合する場合は、後攻チームの攻撃終了時点で自陣にあるクッブの数が多い方のチームの勝ちとなります。

十月十四日、長野市内の公園において開催された中部局クッブ大会（局長杯）には、練習を積み重ねた選手の姿がありました。大会には、長野県庁、林野庁、関東森林管理局、森林整備センターの方々も参加され、合計十四チームが四コートに分かれてカストピンナを投げ合い、優勝を目指しました。

参加選手や応援者が見守る中で行われた決勝と三位決定戦では、見事なプレーやチームワークに歓声が上がり、多くの笑顔の中で充実した一日を過ごすことができました。

木の感触、木と木が当たった時の音、戦術などのゲーム要素もあり、仲間と成功を喜び合い、失敗しても「惜しい」と笑い合える、そんなクッブの魅力を多くの方に体感していただきたいと思います。

【中部森林管理局広報】

念を込めた一投

勝負の行方を見守る参加者

クッブで広がる交流の輪

# 林政記者クラブが無花粉スギや独立基礎型流木捕捉工などを視察

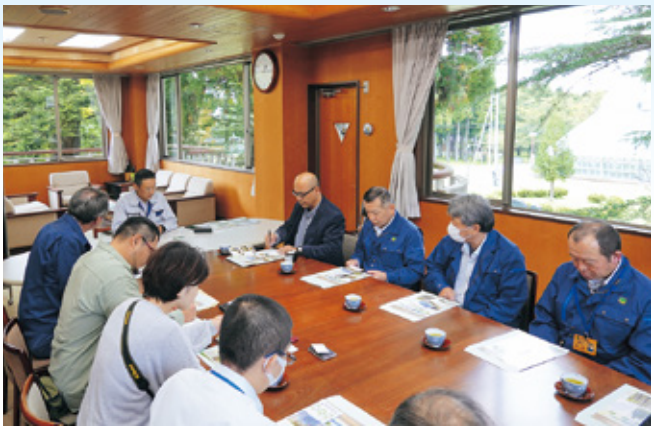
【名古屋事務所・富山森林管理署】

十月十日から十一日の二日間、長野・名古屋の林政記者クラブ合同で、富山署管内での国有林野事業や富山県の取組などについて、視察を実施しました。

初日は、富山署にて署長から管内概要や、庁舎新築時のコンセプトとして取り入れた富山市西部の散居村に多く見られる古民家様式の「あずまだち」などの説明後、富山県森林研究所に移動し、図子副所長から優良無花粉スギ「立山森の輝き」の開発や苗木の育成方法等についての説明を受け、育苗中の苗畑を案内していただきました。令和四年度に、富山署管内においても約一万二千本の「立山森の輝き」を植栽しています。

その後、片貝国有林に移動し、令和二年度に完成した東又谷の「独立基礎型流木捕捉工」について、片貝治山事業所の治山技術官から説明を受けました。

捕捉工の効果やメンテナンスについて確認する様子



無花粉スギの取組について説明を受ける様子

二日目は、ブナ坂国有林の「立山室堂」において、立山森林官から、国有林野保護管理協議会（地元関係自治体・山小屋関係者等と富山署で構成）により、五十一年にわたり取り組んでいる、高山植物等保護パトロール活動（通称グリーンパトロール）について説明を受け、日本最古の山小屋「室堂小屋」や、現在も火山活動中の「地獄谷」の火山ガスの影響による周囲の植生の衰退等を視察しました。

また、立山黒部アルペンルート沿いでは、道路開設における荒廃地の植生復元のために植栽されたミヤマハンノキが過剰な成長をし、景観や安全上の問題に加え、在来植物の生長の妨げとなっており、「国民参加の森づくり」として協定を締結した富山地区のボランティア団体「ＮＰＯ法人きんたろう倶楽部」により除伐作業を行った箇所を視察しました。

参加した記者からは、五月に閣議決定され、取組の加速化が急務となっている花粉症対策の最先端の研究や、国有林の流木対策や現地の状況について、今後の課題も含め、実際に見ることができ、参考になったとの感想が寄せられました。

二日間を通じ、記者の皆様には、スギ花粉発生源対策や、林野庁が行っている各種取組への理解を深めていただいたことと思います。

圧倒的な存在感で人々を魅了する立山の山々

## 南木曽町と合同植樹祭を開催

【南木曽支署】

十月六日、当支署の柿其国有林において、南木曽町との合同植樹祭を五年ぶりに開催しました。

当日は、木曽地域振興局の林務課長を来賓として迎え、町議会議員、地元官公署、林業関係者、南木曽小学校五年生みどりの少年団など、九十六名が参加し、開会式では、みどりの少年団から「これからも安心して暮らせる緑豊かな環境を守り育てる」と、緑の宣言が行われました。

植樹作業は約一時間の日程で進められ、二人一組でスギのコンテナ苗を二百本植えました。また、新たな試みとして、ニホンジカなどからの食害防止として、単木保護材の設置も併せて実施しました。

参加者からは、「植樹本数は少なかったが、保護材の設置はやりがいがあった」「植えるだけでなく、これからが保育の始まりで、大変だと感じた」などの感想がある中、「保護材の支柱立ては、地面が硬く、非常に苦労した」「保護材の設置は、思ったより時間を要した」など、初めて試みた作業についてのご意見もいただきながら、無事に終了しました。

豚熱、コロナ禍により、毎年開催していた植樹祭を中止していましたが、五年ぶりの開催を通じて、南木曽町との協力連携がさらに強くなったと感じています。

植樹と保護材を設置する様子

## 「第七十三回長野県植樹祭」が飯山市で開催

【北信森林管理署・技術普及課】

十月十四日、飯山市の戸狩温泉スキー場にて、「令和五年度 北信州森林祭・第七十三回 長野県植樹祭」が開催されました。

式典では、阿部長野県知事より主催者挨拶、江沢飯山市長から歓迎の言葉が述べられたほか、今泉局長からは、「森を育てる時代から、伐って植えて育てる時代へと変化し、こうした国民参加による緑化事業がより一層大切である」と、参加された皆さんへ感謝の言葉とともにメッセージを送りました。

式典後は、秋晴れの下、地元の緑の少年団をはじめ、林業関係者など、約百五十名の参加者によって、植樹会場のゲレンデに、合計五百本のブナとミズナラが植えられました。

子どもたちからは、「土が硬くて大変だけど楽しい！」との声もあり、大人も子どもも一緒になって心地よい時間を過ごしました。

この苗木が、北信州の深い雪に耐えて大きく成長し、地域の皆さんに愛される景観を創り出すことを切に願っています。

緑の少年団の皆さんと記念標柱の建立

子どもたちと植樹する今泉局長

## 熱田区区民まつりで木工体験コーナーを実施

【名古屋事務所】

十月八日、熱田区区民まつり（にぎわい秋まつり）が開催され、当事務所も木製お絵描きプレートやキーホルダー、ミニいすづくりの体験コーナーを「熱田白鳥の歴史館」において実施しました。

区民まつりは、名古屋国際会議場に隣接する白鳥公園（旧白鳥貯木場）から白鳥庭園周辺を会場とし、にぎやかゾーン（街道宿場市）、キッズゾーン、働く車ゾーンなど、それぞれのゾーンにおいて多彩な催しが行われ、終日賑わいをみせました。

当日は、局次長（名古屋事務所長）をはじめ、愛知森林管理事務所から職員二名、また、近くにお住まいのＯＢがお手伝いに来てくださるなど、総勢七名で対応しました。

あいにくの雨模様でしたが、名古屋市交通局が当事務所駐車場にて「お絵描きバス」を実施した効果もあり、大勢の親子連れが当歴史館を来館されました。

親子で楽しむ木工体験

子どもたちは、ヒノキの輪切り板を受け取り、それぞれ思い思いに絵付けをし、好きな色の紐を結んでキーホルダーが完成。ミニいすづくりは、三十二名限定でしたが、毎年訪れて作製するのを楽しみにされている方もいらっしゃるなど、盛況のうちに終了しました。

今後も、名古屋における木材産業発祥の地である旧白鳥貯木場と「熱田白鳥の歴史館」が、より一層地域に理解されるよう情報発信に努めていきたいと思います。

## 定光寺でのボランティア活動

【愛知森林管理事務所】

十月十一日、愛知県瀬戸市瀬戸国有林の定光寺自然休養林内にある「森林交流館」周辺において、名古屋造林素材生産事業協会 愛知支部と名古屋林業土木協会 愛知支部共催でボランティアによる草刈り作業が行われました。

両支部は毎年、当所が主催する５３０活動に併せてゴミ拾いと草刈り作業を実施されており、今年度は六月二日に予定していたところ、前線の影響による大雨が懸念されたことから活動は延期となりました。

実際に、六月二日から三日には記録的な大雨となり、東海地方において河川の増水による浸水等で甚大な被害が発生しました。

今回、改めて活動していただいた定光寺自然休養林は、都市近郊に位置し、最寄り駅からのアクセスも良く、地元市民のおさんぽコースやハイキングコースとして親しまれています。

秋の行楽シーズンとなる絶好のタイミングで草刈り作業を実施いただいたことで、訪れる利用者が快適に散策等を行えるようになりました。

また、当所管内ではゴミの不法投棄が大きな問題となっていることから、今後も両支部と連携し、５３０活動を継続していきたいと考えています。

ボランティア活動にご協力いただいた方々

戸隠の秋を観察

遊歩道までウッドチップを運搬

ウッドチップの袋詰め

ボランティア活動後に訪れた秋の鏡池

木道の清掃作業

## 企業や団体による ボランティア活動を実施

【北信森林管理署】

十月十三日、株式会社ドコモCS長野支店によるボランティア活動が、長野市の戸隠山（とがくしやま）国有林内にある戸隠森林植物園内において実施されました。

約二十名の社員の皆さんが、社会貢献活動の取組の一環として、国有林の環境保全に向けた取組に寄与することを目的に、遊歩道や木道、戸隠神社の奥社参道の清掃活動や整備作業を行いました。

遊歩道へのウッドチップの敷設作業では、環境省のオフィシャルパートナーである旅行会社（ベルトラ株式会社様）からご提供いただいたウッドチップを袋に詰めて一輪車に載せ、鮮やかな連携プレーで運搬し、遊歩道に敷き詰めていただきました。

作業終了後には、NPO法人戸隠森林植物園ボランティア会のガイドにより、ウッドチップを敷いた遊歩道を歩き、チップを踏んだ時の感触や整備状況などを確かめながら、みどりが池から鏡池までの自然散策を楽しみました。

鏡池に到着すると、眩しい陽射しと美しく輝く水面が皆さんを出迎え、ボランティア作業をやり遂げた達成感と充実した疲労感が漂っていました。

また、十月二十六日には、長野林業土木協会北信分会の方々によるボランティア活動が、戸隠森林植物園内において実施されました。

当日は朝から冷え込み、肌寒さが残る中、協会員の皆さんは、園内の木道清掃や遊歩道の規制ロープの整備作業等を実施していただきました。特に、木道に張り付いてしまった落ち葉や枯れ枝等の清掃をほうきやデッキブラシを駆使して行い、秋の紅葉シーズンを楽しむ利用者が歩きやすい、安全で快適な木道にしていただきました。

ご協力をいただきました皆様方に、心より感謝申し上げます。

## 近隣市町村職員に向けた無人航空機操作講習会を開催

【森林技術・支援センター】

十月十八日、下呂市あさぎり体育館において、ドローン操作の初心者等を対象とした無人航空機操作講習会を開催しました。

この講習会は、令和三年度より毎年開催しており、今回は近隣市町村職員二名が出席し、飛行技術や活用方法などの習得を目指しました。

ドローンは、林相や災害発生現場の確認、地形測量など多岐にわたり活用されていますが、その使用にあたっては、機器に精通した者に偏っているとともに、操作に係る各種法令や手続き等も限られた職員のみが把握している実態にあります。

当センターでは、今後、さらに有益で効率的なドローンの活用を図る観点から、より多くのドローン操縦者の育成が急務であるため当該講習会を実施しており、講習では無人航空機の関係法令、基礎知識、操作方法等の座学の後に、パイロンを目印とした正確な飛行操作や搭載カメラから送られてくる画像の確認などの実習を行いました。

出席した市町村職員からは、「今回初めてドローンを操作したが、今後の業務へ幅広く活用できると感じた」「ドローンは少し操作したことがあったが、操作には慣れが必要で、講習会に参加してよかった」といった感想が寄せられました。

当センターでは、今後も積極的に市町村等職員を交えた講習会を計画していきたいと考えています。

ドローンを操作する受講生

## 米子大瀑布のお膝元で高山植物等保護強化パトロールを実施

【北信森林管理署】

十月二十三日、日本の滝一〇〇選で有名な米子大瀑布が映える米子山国有林周辺の遊歩道において、高山植物等保護対策協議会北信地区協議会主催による高山植物等保護強化パトロールを十五名の関係者により実施しました。

当日の大瀑布周辺は、紅葉の見ごろを迎え、駐車場が満車状態となるほど多くの方々が訪れる中、協議会会員や各関係機関の参加者が中心となり、来訪者とふれあいながら、時にはガイド役にもなり、高山植物保護パンフレットを配布して活動の重要性をＰＲするとともに、遊歩道や周辺のゴミ拾い等の美化活動を行いました。

本パトロールはコロナ禍の影響もあり、久しぶりの実施でしたが、今後とも管内各地において地道なＰＲや啓発活動を通じ、高山植物等の保護に努めてまいります。

紅葉シーズンを迎えた米子大瀑布

来訪者にパンフレットを配布

## 保護林管理委員会を開催

【計画課・東信森林管理署】

十月二十四日及び二十五日、東信署管内の浅間山国有林ほかにおいて、本年度第一回目となる保護林管理委員会を開催しました。

この委員会は、管内の保護林（八十六箇所・約十一万ヘクタールを設定）の管理やモニタリング等について検討することを目的に、学識経験者等の九名で構成しています。

浅間山霧上の松希少個体群保護林における現地検討

浅間山カラマツ希少個体群保護林における現地検討

今回は、昨年度実施したモニタリング調査の結果等を踏まえ、浅間山生物群集保護林及び浅間山霧上の松希少個体群保護林の区域の見直しに係る検討等を目的として、現地にて開催しました。委員からは、ニホンジカ被害対策やモニタリング調査の継続的な実施の重要性など専門的見地からのご意見をいただき、国民の財産である保護林を将来にわたって管理していくための有意義な会議となりました。

## 森林ボランティア・NPO連携推進会議を開催

【木曽森林ふれあい推進センター】

十月二十五日、二十六日の二日間、塩尻市の長野県林業総合センターにおいて、「森林ボランティア・NPO連携推進会議」がボランティア団体代表及び当センターによる実行委員会主催により開催されました。

この会議は、当局管内の森林ボランティア団体・NPO等が一堂に会し、研修、交流を通じて更なる資質の向上と連携強化を図ること等を目的に毎年開催されていましたが、コロナ禍の影響で、中止や規模を縮小しての開催が続き、四年ぶりに二日間にわたる開催となりました。

今年は、森林ボランティア団体等の六団体と当局管内の職員、併せて三十名が参加しました。

一日目は長野県林業総合センターの取組について説明を受けた後、「これからの連携推進会議について」をテーマに会議参加者が五班に分かれて意見交換を行い、どの班からも本会議を継続したうえで、一般の方に森林づくり等に関心を持ってもらえる活動を行ってはどうかという意見が出されました。

二日目は、同センター内でスマートフォンのアプリを用いた木材の強度試験装置、森林整備・森林環境教育に関する貴重な資料や現地を見学し、連携会議は終了しました。

二日間を通して見識を広めることができ、充実した連携・交流の場となりました。

参加者全員で記念撮影

## 森林・林業等を取巻く環境の講演と、「郷土の森」の整備を実施

【名古屋事務所】

十月二十五日、（一社）名古屋林業土木協会青年部の研修会が、部員四十名参加のもと名古屋市内において開催されました。

同協会では、次代を担う人材育成の一環として青年部を組織しており、研修会、有識者による勉強会、各地域での国有林をフィールドとした社会貢献活動などに積極的に取り組んでいます。

研修会では、協会役員から「選ばれる森林土木への協会活動」など技術指導を行い、当局長から「森林・林業・木材産業政策の動向と国有林の役割」について講演を行いました。

また、研修会に先立ち、森林・林業社会貢献活動として、名古屋事務所「熱田白鳥の歴史館」に隣接する「郷土の森」において、剪定作業・枝葉の処理などの環境整備を行っていただきました。

「郷土の森」は、クスノキを主体とする高齢級の常緑広葉樹林で、枝葉の繁茂や枯れ枝等が多く、隣接する白鳥庭園やタワーマンション、名古屋学院大学への通学など、歩行者や自動車への安全面も危惧されていました。

今回青年部の方々と連携して、高枝切挟等を使用し、枝の剪定や枯れ枝等除去を行ったことにより、安全に通行できるようになり、職員一同感謝しています。

郷土の森で枯れ枝の除去などを実施

## 中部ブロック林業成長産業化構想技術者育成研修を応援

【森林技術・支援センター】

十一月七日から十日の四日間、下呂市及び七宗町（ひちそうちょう）において開催された、中部ブロック林業成長産業化構想技術者育成研修に、中部局職員と石川・富山・長野・岐阜・愛知・滋賀・岩手県から十四名の受講生が参加し、当センターが研修運営の応援にあたりました。

この研修はＩＣＴ等の最新技術を活用し、効率・効果的な路網計画を中心とした循環的な木材生産の戦略を描き、林業の成長産業化に向けた構想を作成する人材育成を目的として、中央研修と併せ、全国六ブロックで実施されています。

中部ブロック研修では、中央研修の座学で学んだ内容の振り返り、現地実習や演習を通じて実践力を養うことをテーマとしたカリキュラムとなっており、初日は外部講師による地域特性に応じた森づくり構想の講義等が行われました。

二日目は岐阜署管内の国有林及び隣接する民有林で、路網計画の現地検討や森づくりの現地実習を行い、三日目は各班で実際に路網・森林整備・木材生産の各事業計画と林業成長産業化のための戦略を練り、四日目には、その検討結果を発表し、質疑応答を行いました。参加した受講生からは、「最新技術や各種ソフトを活用して、市場のニーズに応じたサプライチェーンを含めた戦略や構想作りのノウハウを学習できた」などの声が聞かれ、技術力養成への一助となる研修となりました。

当センターでは今後も当該研修の現地スタッフとして、研修の運営をサポートしたいと考えています。

「林業成長産業化構想演習」の発表状況

林業事業体から架線集材について説明を受ける伊那市議会議員

## 林業現場の現地視察を実施

【南信森林管理署】

急傾斜地における集材方法として、架線集材が注目されており、この度、伊那市議会及び長野県南信州地域振興局より架線集材箇所の視察依頼を受け、伊那市長谷黒河内国有林で実行中の森林環境保全整備事業をご覧いただきました。

伊那市議会議員の視察は、十一月七日に経済建設委員を中心に十一名、事務局等として伊那市役所より六名の計十七名が参加し、また、南信州地域振興局の視察は、十一月十六日に、飯田市・下伊那郡選出の県議会議員、大鹿村議会議員、南信州地域振興局より三名、大鹿村役場より二名、大鹿村の林業従事者一名の計八名が参加しました。

視察した事業地は、一、〇〇〇メートルを超えるロングスパンの本格的な架線集材を行っている現場であり、当署職員より事業の概要、架線集材のメリットや課題について説明し、請負事業体の平澤林産有限会社より、架線の説明やリモコンによる集材作業、安全を確保しつつ、作業の効率性等を高め、いかにコストを抑えていくか、また、林業における人材の確保や育成といった現状についてもお話をいただき、視察された方々からも意見や質問が飛び交い、熱心な意見交換を行いました。

これまで、路網整備や高性能林業機械の導入、改良等、路網系作業システムによる効率化が進められてきましたが、今後は急傾斜地における間伐や主伐、再造林等の森林施業も必要となることから、架線系作業システムによる効率的な作業は避けて通れない課題となります。

索張り技術を有した人材の不足、熟練技能者の高齢化などの問題に対し、人材の育成や、先端技術を活用した林業機械の自動化、遠隔操作化が重要となっています。

これからも国有林で行われている事業が地域への情報発信となるよう努めてまいります。

シリーズ

# 森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【岐阜森林管理署
小坂森林事務所
森林官　中澤栄貴】

岐阜県下呂市の北部、霊峰「御嶽山」の西側に位置する小坂町は、山頂と麓との標高差が約二、五〇〇メートルと大きく、地形が急峻であり、豊かな森林から豊富に流れる水が多くの滝を形成し、「日本一滝の多い町」として知られています。

さらに温泉も多く、日本では希少な天然炭酸泉の温泉も湧き出ており、御嶽山登山者たちの身体を癒しています。

特産エゴマの五平餅が美味

そんな小坂町にある当事務所は、滝上・赤沼田・門坂の三つの国有林を管理しており、わずかに天然林が残っていますが、大部分はヒノキ・スギの人工林となっています。

なかでも赤沼田国有林には江戸時代の天保年間に植栽された岐阜県最古のヒノキ人工林（一八〇年生）があり、学術的・歴史的にも貴重であることから、「赤沼田天保ヒノキ希少個体群保護林」に指定し、保護・管理を行っています。林内には植栽されたヒノキのほか、自然に生えた木、枯木や倒木などがあり、林況が複雑で様々な動植物を見ることができ、自然の豊かさを感じることができます。

そのような貴重な森林を守ることも森林官の仕事の一つですが、他に造林事業などの監督業務や境界の保全、増え過ぎたシカの捕獲をはじめとした獣害対策、林道の維持・補修など、現場の最前線で様々な業務を行っています。

山によっては笹などが生い茂り、一歩進むのも一苦労といった現場もありますが、そのような現場ほど仕事が終わった後の達成感は一入です。

## ■未来の担い手へのメッセージ

森林に関わる仕事は幅広く、また、新しい技術も日々導入されるため常に勉強が必要ですが、地域や季節ごとに違う顔を見せてくれる森林の中で、新たな発見や出会いに感動しながら働いてみませんか。

岐阜県最古のヒノキ人工林

レーザー計測器で森林調査を行う筆者

シリーズ

# 「私の森語り」

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。

## 「想いをつなぎ、心豊かな共感社会づくりを目指す」

株式会社エスウッド
代表取締役
**長田 剛和**（おさだ たかよし）

### ■自己紹介

岐阜県各務原（かかみがはら）市で、国産材ストランドボードの開発・製作や、社会や地域の声を反映した建材のカスタマイズを実践している共感開発メーカーの代表をしています。

エスウッドでは、想いの共感できる仲間と、環境、まちづくり、教育の三つの柱で活動をしています。

### ■活動内容

エスウッドは、森林資源が豊富な岐阜県の恵みをいただき、地域材、特に間伐材や小径材に新たな価値を、新たなマテリアル利用をしていくことを目的に設立しました。岐阜県の特色あるヒノキやスギ、そして最近では飛騨地域の広葉樹のストランドボード開発にも積極的に取り組んでいます。

時代とともに、山の状況も変わりますが、山の状況や管理など、山に寄り添ったかたちでいかに社会に価値あるものを創っていくか、そうした想いは設立当時から変わらないものとして受け継がせてもらっています。

岐阜県産ヒノキのストランドボードを
書架、収納ケース、テーブルなどに使用
（ぎふメディアコスモス）

また、「想いをつなぐ」を理念に、地域や企業、行政、NPOをはじめ大学や高校、子供たちと一緒に想いをのせた建材開発や木育、大学研究・VR等の研究など、たくさんの方と関わり、未来を創っていく取り組みを実践しています。

大学との連携によるものづくり

木育による作品づくり

SDGsの取り組みとして、二十数年培ってきたストランドボードの技術を土台とし、いぐさやヨシ、竹、もみがら、稲わら、茶葉のカスタマイズのボード建材開発をはじめ、コーヒー豆カス等の食品廃材、工場から排出されるパッケージ端材や木質端材等の循環を目指した新たなボード開発にも取り組ませていただいています。

### ■メッセージ

時代の変化とともに、社会や地域の状況も変わっていきますが、変わらないものとして会社の理念や自分自身の人生観があると思っています。弊社でも創業者の想いや設立時の理念を大事にし、その上で時代に合わせたビジョンがあります。私たちが目指すのは、大量生産、大量消費の建材ではなく、少量生産から社会や地域に寄り添い、想いを伝えることのできる建材開発・製作の実践を通じた心豊かになる共感社会づくりです。

多くの仲間とともに、想いを共感しあい、利他の心でより良い社会を創っていければと考えています。

ステークホルダーと想いを形に

○連絡先
〒509-0108
岐阜県各務原市須衛町7-74-5
電話：058-379-3023
https://s-wood.jp/

シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

第32回

中部森林管理局総務課
井上（いのうえ） 日呂登（ひろと）

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

## 「クリスマスツリー」

戦中及び戦後復興期の乱伐を受けて、昭和三十年頃は国土の荒廃が強く憂慮されていた時代でした。こうした背景から、昭和二十九年より国土緑化推進委員会などによって森林資源の浪費につながりかねない門松とクリスマスツリーの自粛運動が行われていました。

長野営林局ニュース

門松とクリスマス・ツリーの自粛運動に協力を！

門松とクリスマス・ツリーの自粛運動について

昭和32年の自粛の呼び掛け

昭和37年　浅間山における
クリスマスツリー盗伐防止パトロール

その一方でクリスマスツリー用木のニーズは存続し、若齢木の盗伐が国有林でも続発、昭和三十年代後半のシーズン前には首都圏からアプローチしやすい浅間山周辺で盗伐防止のパトロールが行われる事態にもなっていました。

昭和五十九年　ツリー販売の宣伝看板
（現在の東信森林管理署）

しかし時代は移り、戦後に植栽した造林木が成長してきた昭和五十年代後半から平成初期にかけては、各営林署での収入を上げるため、ウラジロモミ類などをクリスマスツリーとして販売する試みが行われました。

現在でも一部の市町村で正月用門松の代替品として門松カードが配布されていますが、これは門松とクリスマスツリーを自粛していた時代の名残でもあります。

平成４年　名古屋港に設置されたツリー
（現在の飛騨森林管理署が販売）

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むか～しの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、コードを読み込んでください。

モノクロ

シリーズ 中部の保護林（第32回）

# 富山県では希少な常緑広葉樹の天然林

## 愛本ウラジロガシ等 遺伝資源希少個体群保護林

**設定目的**

当保護林にみられるウラジロガシ、ケヤキは、富山県内でまとまって生育している天然林が少ないことから、これらの個体群の保護・管理をしています。

**地況・林況**

飛騨山脈（北アルプス）の北端から流れる黒部川の中流部、山岳地形である黒部渓谷帯から平野である黒部扇状地へと移行する境界（扇頂部）に所在し、河川を挟むような形で位置しています。

暖温帯林にみられる常緑広葉樹が生育しており、河川に近接し風が強くあたる岩山に、高齢のウラジロガシの群落が成立しています。

また、学術上貴重な存在であることから、富山県の県指定天然記念物に指定されています。

所在地
富山県 黒部市

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正４年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課　ダイヤルイン：026-236-2612

※詳細は、コードを読み込んでください。

# フォトコン作品からもっと伝えたい林業の魅力！

Good Wood Workers

作品名：「休憩ちょっといっぷく」

昨年度の「中部の森林（もり）林業従事者写真コンテスト（フォトコン）」において入選された、有限会社松橋林工の今井社長に、作品や国有林についてなど、取材させていただいたのでご紹介します。

## 今井さん　作品のことを教えてください！

コンテストのことを知り、林業従事者の姿を発信する良い機会であり、社員の意識も高まると考え、みんなに声をかけて応募しました。

この写真は、冬山での伐採作業のあと、暖かな日差しの下で昼食をとっている時の一枚で、いつもの明るい雰囲気を上手く撮影できました。

## お二人とも　とても体格が良いですね！

若いアルバイトの男の子たちは、彼らのような鍛えられた体と比較されるので、一緒に着替えることを嫌がります。山の上まで苗木やシカ食害防護用の資材を担いで運搬するなど、力を必要とする作業を当たり前にやっています。木に登って伐採する「特殊伐採」の資格を持っている社員もおり、現場で働ける体になっていきます。

最近、ドローンが苗木や資材を運ぶ様子を目の当たりにして、「今まで先輩方や自分たちが苦労してきた作業なのに、こんなに楽をして良いのか！」という感想を持っている社員もいます。ドローンなどの新技術は、高性能林業機械のように上手に使っていきたいと考えています。

## 国有林での　仕事について教えてください！

祖父と父が鞍掛峠（くらかけとうげ）の岐阜県側で土木関係の作業をしていた時、木曽署の担当区主任（現在の森林官（みうれ））がやって来て、長野県側の三浦国有林で造林をやってみないかと熱心に誘われ、始めたのが松橋林工の始まりです。現在は木曽署、東濃署、岐阜署管内の国有林のほか、民有林の造林や生産事業を請け負っています。

現場代理人の社員たちは、お互い良いライバル意識を持ち、切磋琢磨しながら現場作業がうまくいくように状況を確認し、積極的に森林官と話をしています。

今年、二名の若い社員が加わり、更に活気付いていますので、これからも次世代の林業の発展に向けて、しっかりと取り組んでいきたいと思います。

**◆有限会社松橋林工のご紹介◆**

昭和四十一年に創業。常に安全作業を考え、実践しながら森林作業に取り組んでいます。丁寧な仕事を心掛け、信頼できる会社を目指しており、一緒に働きたくなる仲間がいるアットホームなところも魅力です。

取材協力／有限会社松橋林工
所在地／中津川市加子母1462-11
電話／0573-79-2820

## 編集長だより

（中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jp まで電子メールでお送りください。）

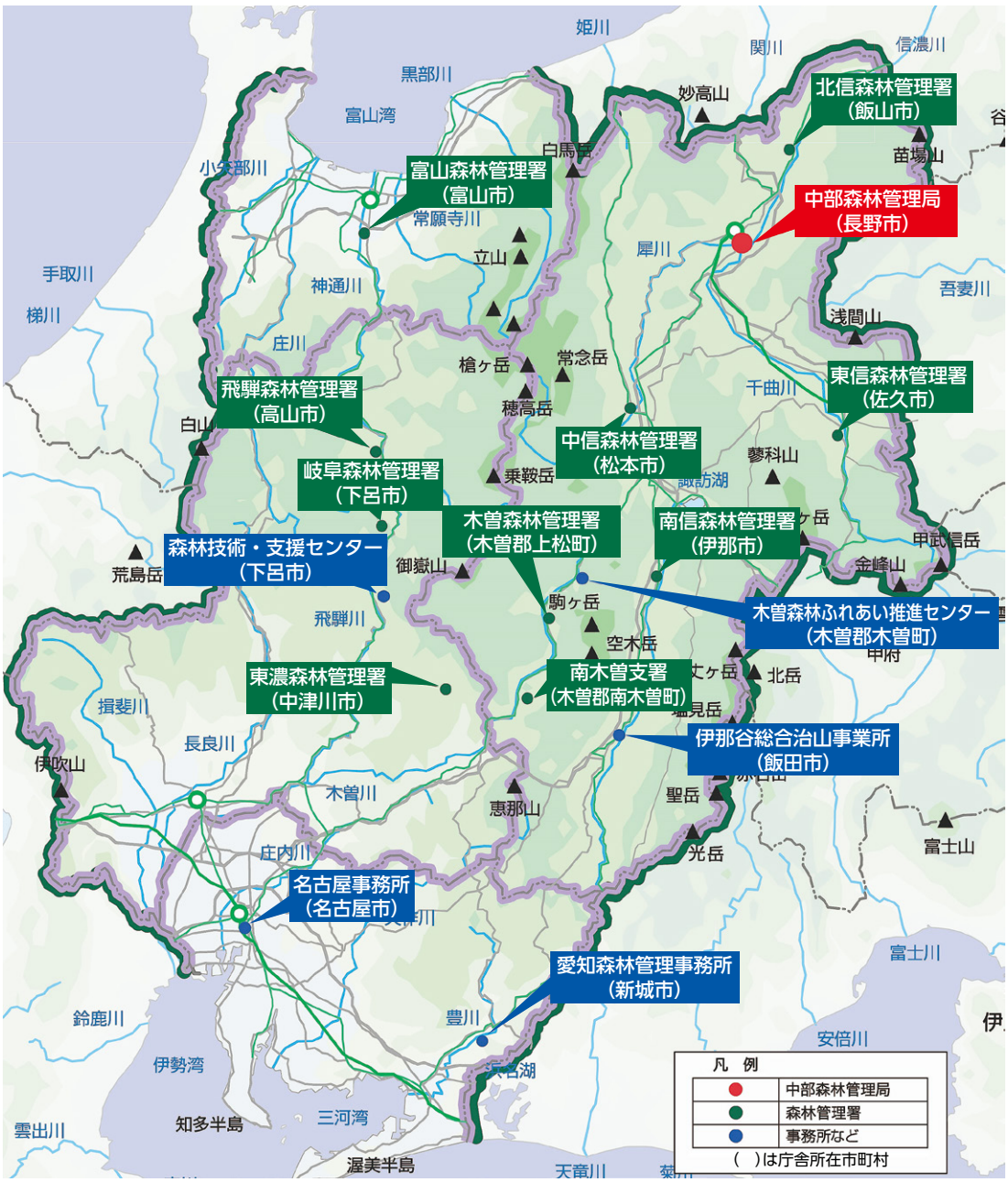
広報「中部の森林」、今年も１月号から12月号まで予定通り発行することができました！

「私の森語り」にご寄稿いただいた皆様、森林や林業の魅力発信にご協力いただいた皆様、表紙の写真をご提供いただいた皆様など、広報活動を応援してくださった皆様、本当にありがとうございました(*^▽^*)

今月号の表紙は、先月、私が岐阜市内の金華山に登って（ロープウェイ利用）、岐阜城を背に展望台から撮影した１枚です。改めて、その風景を眺めながら、今年も数々の出会いや出来事、別れや悩みがあったことを思い出し、生きていることを実感できる日々を過ごしてきたことに幸せを感じています。

来年も一日一日を大切に、広報誌を発行していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは皆様、よいお年をお迎えください！

美しい自然を次世代に残すため、土砂災害等から人々を守るため、森林作業に誇りと生きがいを持って取り組んでいる松橋林工の山師たち




中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。

中部森林管理局
ホームページ

広報
「中部の森林」

用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 名古屋事務所 | 〒456-8620 | 愛知県名古屋市熱田区熱田西町1-20 | TEL 050-3160-6660 | c_nagoya@maff.go.jp |
| 富山森林管理署 | 〒939-8214 | 富山県富山市黒崎字塚田割591-2 | TEL 050-3160-6080 | c_toyama@maff.go.jp |
| 北信森林管理署 | 〒389-2253 | 長野県飯山市大字飯山1090-1 | TEL 050-3160-6045 | c_hokushin@maff.go.jp |
| 中信森林管理署 | 〒390-0852 | 長野県松本市島立1256-1 | TEL 050-3160-6050 | c_chushin@maff.go.jp |
| 東信森林管理署 | 〒384-0301 | 長野県佐久市臼田1822 | TEL 050-3160-6055 | c_tohshin@maff.go.jp |
| 南信森林管理署 | 〒396-0023 | 長野県伊那市山寺1499-1 | TEL 050-3160-6060 | c_nanshin@maff.go.jp |
| 木曽森林管理署 | 〒399-5604 | 長野県木曽郡上松町正島町1-4-1 | TEL 050-3160-6065 | c_kiso@maff.go.jp |
| 南木曽支署 | 〒399-5301 | 長野県木曽郡南木曽町読書3650-2 | TEL 050-3160-6070 | c_nagiso@maff.go.jp |
| 飛騨森林管理署 | 〒506-0031 | 岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3 | TEL 050-3160-6085 | c_hida@maff.go.jp |
| 岐阜森林管理署 | 〒509-3106 | 岐阜県下呂市小坂町大島1643-2 | TEL 050-3160-6090 | c_gifu@maff.go.jp |
| 東濃森林管理署 | 〒508-0351 | 岐阜県中津川市付知町8577-4 | TEL 050-3160-5675 | c_tohno@maff.go.jp |
| 愛知森林管理事務所 | 〒441-1331 | 愛知県新城市庭野字東萩野49-2 | TEL 0536-22-1101 | c_aichi@maff.go.jp |
| 森林技術・支援センター | 〒509-2202 | 岐阜県下呂市森876-1 | TEL 050-3160-6095 | c_gijutsus@maff.go.jp |
| 木曽森林ふれあい推進センター | 〒397-0001 | 長野県木曽郡木曽町福島5473-8 | TEL 0264-22-2122 | kiso-fureai@maff.go.jp |
| 伊那谷総合治山事業所 | 〒395-0001 | 長野県飯田市座光寺5152-1 | TEL 050-3160-6075 | |


発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒 380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/


メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
（毎月 10 日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります）
登録サイト https://mailmag.maff.go.jp/m/entry

本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。